

千葉地裁夏休み広報企画

おしえて！裁判官！

～結果報告～

今回の企画を通じて裁判官への質問を寄せてくれた小学生とその保護者の方を裁判所へご招待し、イベントを実施しました。



令和**4**年
8月**5**日(金)

実施

① DVD視聴



裁判所や裁判の手續について、小学生にもわかりやすくまとめたDVDをみてもらったにゃ

【感想(小学生)】

・日本の裁判所にも5種類も少し違いがあったりなどと、気になることも多かったなので、家に帰って調べてみようかなと思います。



② クイズ大会

DVDを見たみんなに
どのくらい裁判所を知って
もらえたか、力試しの
クイズ大会をしたにゃ

【感想(小学生)】

・クイズで楽しくできたから来てよかった。テレビとかではわからないことも知れてよかった。



③ 法廷内見学・法服試着



法廷の中を自由に見学
してもらった後、法服を
着て判決を読み上げる
体験もしてもらったにゃ

【感想(小学生)】

・法服を着れて珍しい体験ができてよかった。法服の素材が思っていた感じとは違って驚いた。女性の方はスカートをまくことを今日初めて知った。



④ 裁判官へのインタビュー

当日は、小学生の皆さんから直接裁判官に質問をしていただきました。ここでは当日の質問・回答のほかにも、今回の寄せられた質問に島田環裁判官（刑事第3部、裁判官になって22年目）と林拓也裁判官（民事第2部、裁判官になって3年目）が回答します！

小学生



①小学生の時、何になりたかったですか。裁判官になりたいと思った理由は何ですか。また、何才頃から裁判官を目指しはじめましたか。

林裁判官



私が裁判官を目指したのは28歳の時です。司法試験に合格し、司法修習という勉強をしている時期に裁判官に会って裁判官を目指しました。

私は、小学校の時はプロ野球選手になりたかったし、中学校の時にはパイロットになりたかったし、高校生の時と大学生のときには弁護士になりたいと思っていました。

私が裁判官になりたいと思った理由は、トラブルを抱えた人に対して、法律にしたがって考えた結論や内容を出して、それを伝える仕事に就きたいと思ったからです。

裁判官は、みなさんがイメージしているように、その事件について、自分で考えて結論を出し、その理由を説明します。一生けんめい調べて、考えて、結論を出す。そしてその理由をその人に伝える、そういった仕事をする裁判官という仕事にみりよく感じました。

小学生



②裁判官になるために、小学生でもできることはありますか。

林裁判官



裁判では、国語も算数も理科も社会も英語その他小学校や中学校などで教わる内容がわからないと、裁判の結論を出せないことがたくさんあります。なので、学校で教わる勉強は一生けんめいした方がいいのだと思います。

あとは、色々な人と色々な話をするのがいいと思います。色々な人とお話をして、ほかの人の気持ちや、考えを知ること大切だし、自分が詳しくないことや得意ではないことを、それについてくわしかったり得意だったりする人に教えてもらおうと、とても勉強になります。私も、小さいころから人と話をすることが好きでしたが、裁判官になってから、今まで色々な人と話をしてきてよかったなと思うことがあります。

小学生



③裁判官にとって一番大事な資質・能力は何だと思いますか。

私自身が、これまでに多くの裁判官と接して思うのは、他の人の意見に耳を傾け、自分の考えにこだわらず、自分が間違っていたと思ったら、素直に直し、他の人の意見を取り入れたり、じゅうなんに考えたりすることができる能力だと思います。

裁判官は、良心にしたがい、独立して仕事を行う、憲法と法律だけに拘束されることが憲法で決められていますが、これは、ひとりよがりになるということでは決してありません。私は、自分の判断が説得力のある、バランスのとれたものになるためにも、いろいろな人の意見をそんちょうし、十分に吸収し、自分の考えをじゅうなんに変更できることが、とても重要な資質ではないか、と考えています。

島田裁判官



小学生



④裁判官は、転勤があると思いますが、これまで何県に行きましたか。

この質問は、複数の裁判官に聞いてみました。

千葉のほかに、北海道、青森、東京、三重、愛知、京都、大阪、広島、長崎など様々な都道府県の裁判所で勤務していました。

例えば、青森では、家族を含め、ねぶたの組み上げの手伝いやおはやしに参加したり、京都では、祇園祭などの大きなお祭りを楽しんだり、それぞれの裁判官がその地域の文化に触れてきたようです。転勤先では3年程度の時間をすごすため、観光旅行ではできないような体験もできる一方、それまで行ったことのない地域に行ったからこそ故郷の良さに改めて気が付くこともあるみたいです。

裁判員裁判を担当した裁判官は、「裁判員の方々から、その地域のおすすめの観光地などを教えてもらい、週末にその場所に出かけるなどして、その地域ならではの生活を楽しんだよ」と言っていました！

島田裁判官



小学生



⑤裁判官になって、つらいと思ったことはどんなことですか。心をリフレッシュするためにやっていることはありますか。

林裁判官



裁判官は、社会の中で生じてしまったトラブルを扱う仕事をするので、とても緊張するし、プレッシャーを感じる時があります。

私にとってのリフレッシュは、湯船につかることです！湯船につかってぼーっとしているとその日一日の疲れがとれる感じがします。

また、土曜日や日曜日は、家族で出かけたり、おしゃべりしたり、テレビを見ながら笑ったりするのも、リフレッシュの時間です。

日ごろから、仕事と私生活の切り替えを意識しています。

小学生



⑥どんな気持ちで裁判や判決をしていますか。判決を決めるのに気を付けていることはありますか。自分が下した判決が間違っていたと思ったら、どうなりますか。

島田裁判官



私が意識しているのは、一つ一つの事件に、ていねいに、真剣に向き合って裁判をすることです。私たち裁判官にとって、裁判は毎日の仕事ではありますが、裁判を受ける被告人や事件の被害者にとっては、その後の人生を大きく変えるかもしれない大切な局面であるかもしれません。そのような仕事であることを日々忘れずに裁判に向き合いたいと思います。

また、判決を決めるときには、判決した後にその結論や理由に誤りがあったと後悔しないように、一生けんめい考え、わからないことは調べ、他の人の意見を聞き、さらに考えて表現をねりなおしたりして、納得するまで考えるようにしています。ただ、裁判官も普通の人間ですので、間違ってしまうこともあります。日本の法律では、判決に不服がある人は、高等裁判所に控訴、さらに最高裁判所に上告という不服の申立てをすることができる制度（三審制）があり、判決に誤りがないかの審査を受けることができる仕組みになっています。

小学生



⑦裁判官の仕事で、一番むずかしい仕事は何ですか。判断に迷ったときはどうしますか。

裁判では、裁判官も知らないことが問題になることが色々あります。

そういう時には、本を読んだり、同じような事件では、ほかの裁判官がどのように考えたのかなどをたくさん調べたり、他の裁判官と話し合ったりすることで疑問や悩みを解決しようとしています。また、その裁判の中で提出された証拠をじっくり読みなおして、自分の中の常識にしたがって考えてみたときに、それが合理的といえるかどうかをしっかり考えます。

私は、「裁判官の仕事は、法律を知っているだけではできないなあ」と思うことがあります。日々のニュースを見ていて気になって調べてみたことや、日常生活の中で起きること、何気なく友人や家族とした話をきっかけにして考えたり調べたりしたことが役に立つことがあるのです。なので、私は、日ごろから、法律以外の色々なことにも興味を持っていたいと思っています。

林裁判官



小学生



⑧裁判で忙しい時のお昼ごはんは何を食べているんですか。

この質問も複数の裁判官に聞いてみました。

そもそも、お昼ご飯を食べる時間が全くないほど忙しい時はあまりないようですが、お昼をゆっくり食べる時間がない時もたまにあって、そういう時には、おにぎりやパンやカップラーメンを食べている裁判官が多かったです。それでも、パンを食べるという場合には、おいしいパン屋さんでその日の食べたいパンを選ぶなど、お昼ご飯の時間を大切にしているみたいです！

また、刑事事件を担当している裁判官は、新型コロナウイルスの流行前には、裁判員の方々と一緒にお弁当を食べて、おすすめの観光地や食べ物などを教えてもらうなどして、事件以外の話で交流を深めていたそうです。

林裁判官



小学生



⑨自分が担当している事件のニュースを見ますか。報道された事実や意見に影響を受けますか。

島田裁判官



裁判は、法廷で調べられた証拠だけに基づいて判決をしなければならないというルールがありますので、あえて担当する事件のニュースを見たり、チェックしたりすることはありません。逆に、特別さけて見ないようにしているということもありません。

裁判で提出された証拠や、法廷で被告人や証人が話したことが、事件の詳細い内容を一番正確に表しています。ニュースから知らなかった新たな情報が得られるということはありません。裁判では、裁判官と裁判員が、法廷で調べられた証拠と証人・被告人の話だけに基づいて議論して結論を決めます。報道された事実や意見が、事件の判断に影響をすることはありません。

多数のご質問をいただき、
ありがとうございました。



⑤ 参加していただいた方の感想

小学生



・裁判について、とてもよく知ることができました。法律というものを身近に知れたほか、〇×クイズ、質問コーナーなどもあり、とても楽しかったです。将来、今回教えていただいたことに関係する職業に就きたいなと思ってしまいました。コロナの中、夏休みあまり外出ができなかったもので、とてもいい機会でした。

・裁判官がどんなことをしているのかがわかった。裁判所という場所がとても社会に必要とされているということもわかった。実際に、イスに座ってみたり法服を着ると少し裁判官の気持ちのようなものがわかった気がした。私もいつか裁判官になって、みんな笑顔になってほしいです。

・裁判について、関心を持てた。もう少し緊張するかと思ったけど、リラックスして参加できてよかった。いい経験になった。裁判や法律に少し詳しくなった気がする。

保護者

・普段なかなか馴染みのない場所である裁判所を見学させていただき、子供の視野を広げる良いきっかけになりました。子供(小6)は今、日本の社会について学んでいるため、勉強と結びつけることもできたので、世の中の仕組みを知る良い機会でした。



・とても貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。質問コーナーでは、自分も質問したい気持ちで思わず手を挙げそうになりました。

・初めて裁判所に来ました。非常に興味深い時間でした。裁判官は難しい判断を下すので、険しい顔をした人が来るかと思ったが、とても人の心に寄り添い、日々色々深く考えていることが伝わってきた。

・DVD 視聴から得た知識でクイズがあり、法服を着て法壇で写真を撮影できてインタビューもたくさんできてあっという間の2時間に感じました。入念なご準備どうもありがとうございました。裁判官がお二人ともとても丁寧に質問に答えてくださり、感謝申し上げます。

⑥ 裁判官からのメッセージ



参加してくれた小学生の皆さんが、目をきらきらさせながら、真剣にクイズや私たち裁判官へのインタビューに取り組んでくれたと感じ、とても嬉しい気持ちになりました。私自身、楽しい時間を過ごさせてもらいました。ありがとうございました。

皆さんの中には、将来裁判官になりたいと思ったという、嬉しい感想を持ってくれた人もいました。また、皆さんが18歳になったら、裁判員として私たち裁判官と一緒に刑事裁判をすることになるかもしれません。今日の体験が、将来、不安や抵抗なく裁判に参加してもらえるきっかけになればうれしいです。

これからも、裁判所や裁判官が少しでも皆さんにとって身近な存在になれるよう、よりよい企画を考えていきたいです。たくさんの皆さんの参加を待っています！

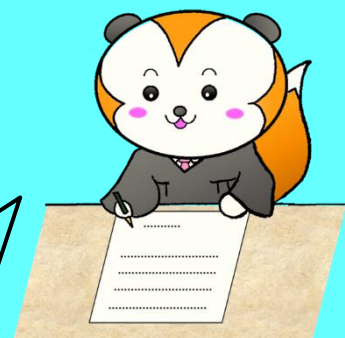
(刑事3部 裁判官 島田 環)

今回のイベントに参加をしてくださったみなさん、裁判や裁判官に関する理解は深まったでしょうか？

今回、みなさんが、積極的にクイズ大会や私たち裁判官へのインタビューに参加してくれている姿を見て、裁判に関することや、裁判官に関することにたいへん興味を持っていただいていることがよく伝わってきて、すごくうれしかったです！

原則として裁判は公開の法廷で行われることになっていて、みなさんはそれを傍聴することができます。今後も、裁判やそれに関係する人たちの仕事に興味が出てきたときには、裁判所の見学や、裁判の傍聴に来てみてください。

(民事2部 裁判官 林拓也)



参加者の皆様

ありがとうございました！

